

【とうきょう すくわくプログラム活動報告書】

活動日時	2025/6/13 (金)
クラス	5歳児らいおんぐみ

① 年間テーマ	自然
---------	----

② 活動内容 (ねらい)

- ・千葉市少年自然の家へバスで行き、泥んこ遊びやザリガニ釣りなど普段の保育だけでは経験できない自然に触れて遊ぶ
- ・グループに分かれて探検遊びをしながら、草木の匂いを感じたり虫の生態を知る

子どもの姿

- ・子どもと保育士で1泊2日過ごす中で、保護者と離れることが不安になることはあるが、様々な体験を通じて自然と触れ合うことの楽しさやグループ活動の面白さを実感する。

③ 環境のデザイン

救急セット・送迎バス・プロジェクター・パソコン・貸し出し用ザリガニ釣りセット
 ※多めに着替えやタオルを持っていく。タイムスケジュールを子どもたちへ事前に伝えておき、期待感が膨らむようにする。

④ 活動実践

- ・千葉市少年自然の家へ一泊二日で行き、東京では経験できない自然に触れる。
- ・少人数でグループに分かれ活動する中で、大人が付き添い援助することができるだけ子どもたちで考えて行動できるように見守る時間を作る。

子どもの言葉・姿・保育者とのかかわり等

【泥んこ遊び】

事前に昨年度のビデオを見せたり、話をしていたことで、田んぼに入ることに抵抗を示す子はいなかった。しかし実際に行くと少し不安そうな表情をしている子もいたが大半の子は躊躇することなく田んぼに入っていた。その様子に不安そうな表情をしていた子も一緒に入っていた。泥遊びでは手や足で泥の感触を楽しんでいた。友だちや保育者と腕や顔に泥を塗り合っていて楽しんでいた。



【ザリガニ釣り】

ザリガニ釣りでは、自分の思うように釣れないことや、エサに食いついても引き上げるときに逃げられてしまうこともあったが、根気強く待ち、1度釣れる経験すると、嬉しさから何度も挑戦していた。釣り上げたザリガニを自分で掴んでバケツに入れていた子もいた。そのバケツの中で大きなザリガニが小さなザリガニを共食いするところを見た子が助けようとしていたが、助けられず自然の生命の尊さを学んだ様子が見られた。



【探検】

自然の中を沢山歩いて、気持ち良さを感じたり、東京では見られない虫を見つけて、捕まえようとしていたり触ったりしていた。



⑤ 振り返り (保育者の気づき)

普段の生活では経験することが出来ない泥んこ遊びやザリガニ釣り、キャンプファイヤーなど経験を通して、子どもたちの新たな発見や成長を見ることができた。生活面でも普段できない事を自ら経験をする事によって「やってみよう！」という意欲的な気持ちが芽生えた。しばらくしてお泊り遠足の様子をパソコンで見ることにより、より楽しかったことや感じたことを思い出し話し合い、製作や作画にしていた子もいた。